

板橋区コミュニティ・スクールに係るアンケート調査の集計結果について

板橋区コミュニティ・スクール（iCS）について、各学校や委員会の現状を把握し、より学校や地域の現状に則した仕組みにするため、学校及びコミュニティ・スクール（CS）委員、地域コーディネーターを対象に、12月から2月中旬にかけてアンケート調査を毎年実施している。

この度、集計結果がまとまったので報告する。

記

1 板橋区コミュニティ・スクールに係るアンケート調査まとめ

- ・学校回答用
- ・コミュニティ・スクール委員回答用
- ・地域コーディネーター回答用

2 今後について

本集計結果については、板橋区公式ホームページに掲載済みであり、4月22日（水）全体校長会において校長に周知し、各CS委員会でフィードバックしてもらう。

（ホームページ URL

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/kyoikuiinkai/chiiki/community/1028732.html>）

板橋区コミュニティ・スクールに係る アンケート調査《学校回答用》 まとめ

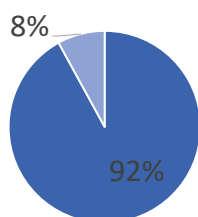
令和7年度

1

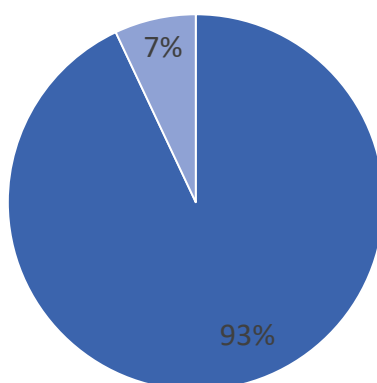
1

Q1 会議の開催数（年5回）は適当だと思いますか。

令和6年度



令和7年度



■ 適当 ■ 適当でない

会議の開催数が適当だと回答した学校は約93%であった。

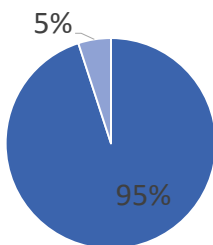
適当でないとする回答の中には、6回以上開催する必要があるとの意見もみられた。

2

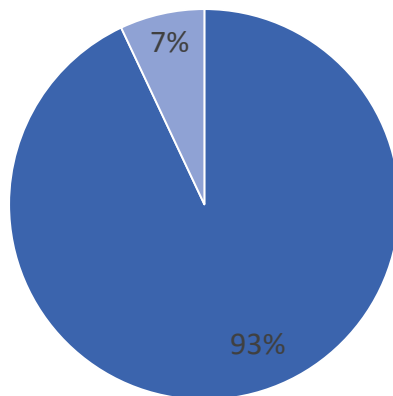
2

Q2 委員の人数（地域委員10人以内）は適当だと思いますか。

令和6年度



令和7年度



■ 適当 ■ 適当でない

委員の人数は適当であると回答した学校は約93%であった。

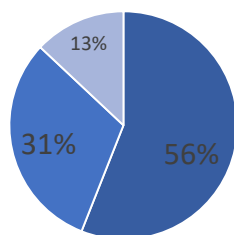
適当でないとする回答の中には、学校の実情によって委員数を変えても良いのではないかという意見もあった。

3

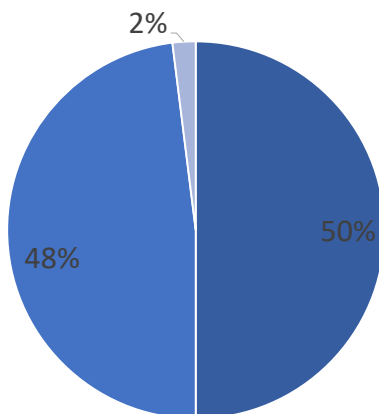
3

Q3 熟議のテーマ設定に委員長又は委員の意見を反映させていますか。

令和6年度



令和7年度



■ 毎回している ■ 1回はしている ■ していない

約98%の学校が、1回以上は熟議のテーマ設定に委員長又は委員の意見を反映させていると回答した。

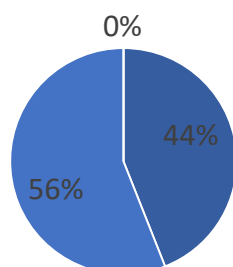
委員会開始前にCS委員長と打合せを行い、熟議のテーマを決めている学校もある。

4

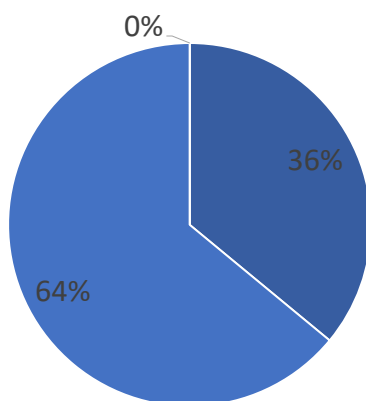
4

Q 4 学校の課題や悩みについて、委員と共有できていると思いますか。

令和6年度



令和7年度



■すべて共有できている ■一部共有できている ■共有できていない

昨年度と同じく、全ての学校において、委員と課題や悩みを共有できていると回答した。

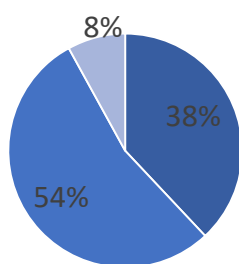
年5回のCS委員会では、タイムリーに課題や状況を共有することができないという意見もある。

5

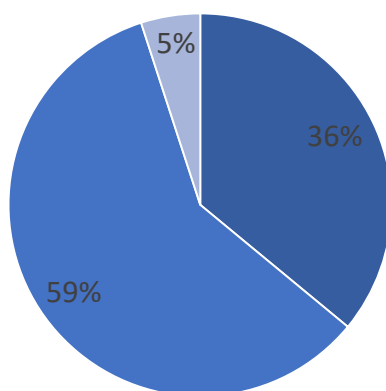
5

Q 4-2 (すべて共有できている・一部共有できていると回答した学校) 学校の課題や悩みに対して、委員から解決策等が出てきますか。

令和6年度



令和7年度



■具体的解決策まで出る ■意見は出るが解決までには至らない ■あまり意見は出てこない

問4で課題や悩みを共有できていると答えた学校のうち、具体的解決策まで出る学校は約36%であった。

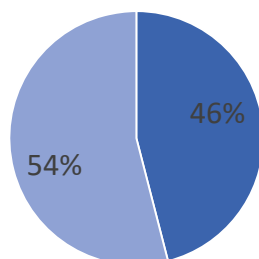
昨年度と比較し、委員から意見が出る学校の割合は約3%増加した。

6

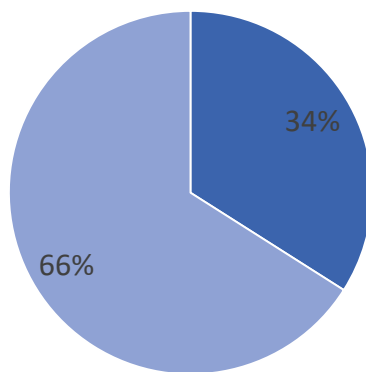
6

Q5 学校経営方針や基本的な方針について、委員から意見はありましたか。

令和6年度



令和7年度



■ある ■ない

C S 委員会の重要な機能の1つである基本的な方針の承認について、委員から意見があったとする学校は約34%であった。

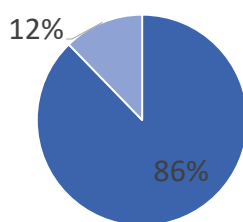
C S 委員会で年間を通して学校経営方針について熟議、説明をしている学校もある。

7

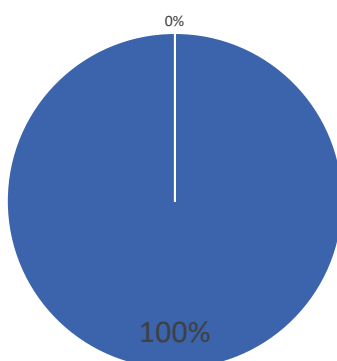
7

Q5-2 学校経営方針や基本的な方針について、委員から意見はありましたか。 (あると回答した学校) 出された意見を当該方針に反映させましたか。

令和6年度



令和7年度



■反映させた ■反映させることはできなかった

意見を反映させた学校は、100%であった。

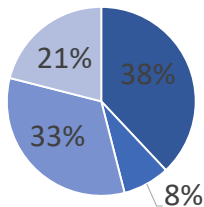
学校経営方針の説明の際には、委員が理解しやすく、意見が出しやすい環境が求められる。

8

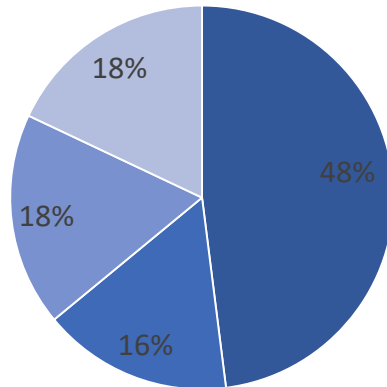
8

Q 6 熟議を実施する際、積極的な発言や意見をまとめるなど、実質的に熟議の進行を担っている方を選択してください。

令和6年度



令和7年度



■委員長 ■校長 ■副校長 ■その他

昨年度と比較し、熟議の進行を委員長が担う学校の割合が約10%増加した。
その他の意見の中には、副委員長やCS委員が務めているという意見が多かった。

9

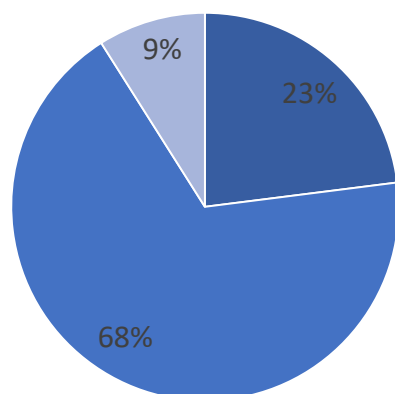
9

Q 7 熟議を実施する際に、教職員は参加しましたか。

令和6年度

設問なし

令和7年度



■毎回している ■1回はしている ■していない

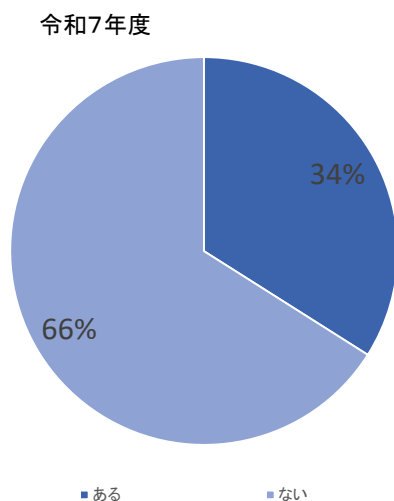
約91%の学校が、1回以上熟議に教職員が参加していると回答した。
主幹教諭など、地域との連携を担当する教職員が毎回参加している学校もある。

10

10

Q 8 熟議を実施する際に、児童・生徒が参加したことはありましたか。

令和6年度
設問なし



約34%の学校が、熟議を実施する際に、児童・生徒が参加したことがあると回答した。

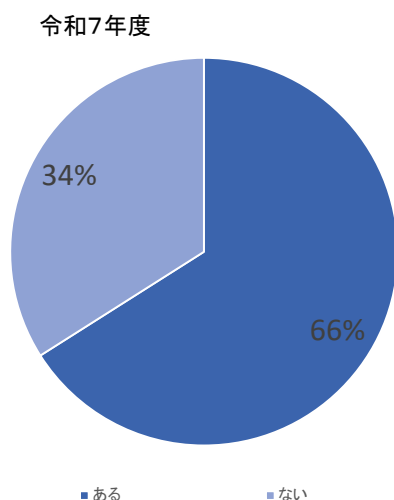
生徒会の生徒や6年生児童が熟議に参加する例がみられる。

11

11

Q 9 学びのエリアにおけるめざす子ども像と基本方針を、CS委員会で話題として取り上げたことはありましたか。

令和6年度
設問なし



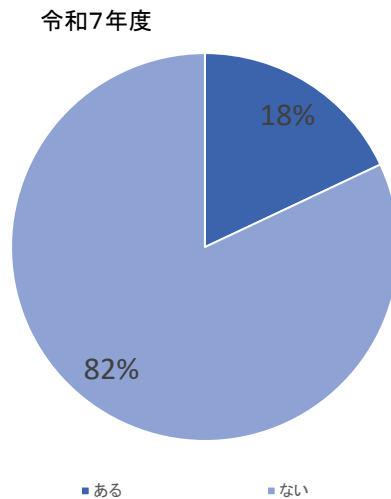
約66%の学校が、学びのエリアにおけるめざす子ども像と基本方針を、CS委員会で話題として取り上げたことがあると回答した。

12

12

Q10 [小学校]学びのエリアの中学校と合同でCS委員会を開催した回がありましたか。
[中学校]学びのエリアの小学校と合同でCS委員会を開催した回がありましたか。

令和6年度
設問なし



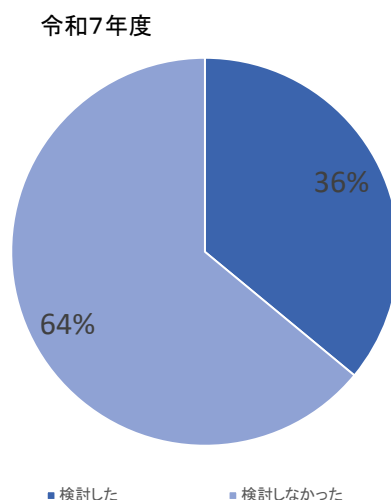
約18%の学校が、学びのエリアの学校と合同でCS委員会を開催している。
小中合同のCS委員会は熟議というより意見交換のようなものに留まってしまうことが多いという声もある。

13

13

Q10-2 (あると回答した学校)
小・中合同で実施できる地域連携事業等を検討しましたか。

令和6年度
設問なし



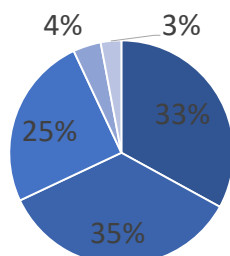
約36%の学校が、学びのエリアの学校と合同でCS委員会を開催する際に、小・中合同で実施できる地域連携事業等を検討したと回答している。

14

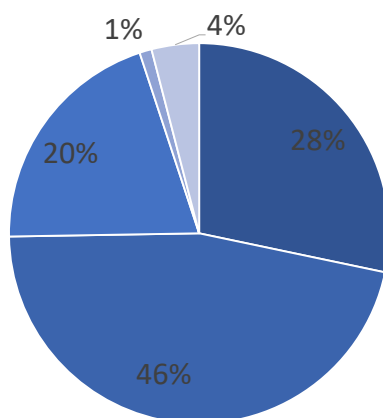
14

Q 1 1 C S 委員や地域コーディネーター、i C S 活動についての紹介や周知方法に関して、当てはまる項目を全て選択してください。

令和6年度



令和7年度



■ iCS だより ■ 学校 だより ■ 保護者会や地域の会合等 ■ 周知していない ■ その他

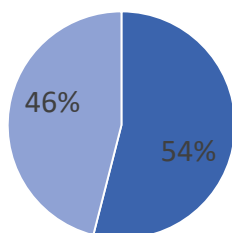
学校 だよりで i C S の活動の紹介や周知を行っている学校が最も多かった。その他の回答として学校のホームページへの掲載や、すぐーるの活用によって周知をしている学校があった。

15

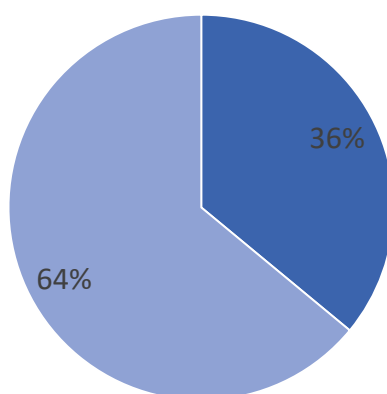
15

Q 1 2 委員の人選について、課題と感じていることはありますか。

令和6年度



令和7年度



■ ある ■ ない

委員の人選に課題を感じている学校は約 3 6 % と約 1 8 % 減少した。

【主な意見】

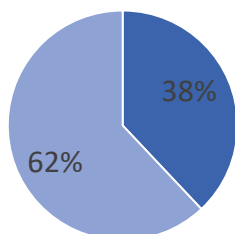
- 委員の高齢化
 - 定期的に入替えは重要と感じているが、後継者探しが難しい。
 - 仕事をしている委員の出席率が低くなってしまう。
 - 任期が無いと委員の交代が難しい。
- など

16

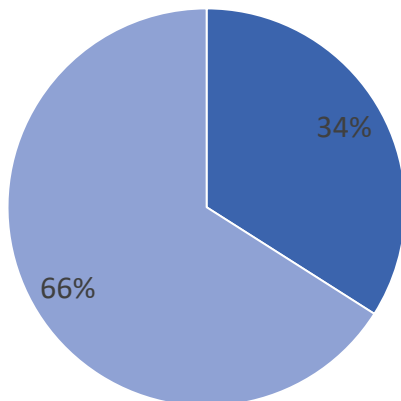
16

Q 1 3 委員の任期に更新限度を設定した方がいいと思いますか。

令和6年度



令和7年度



■ 思う ■ 思わない

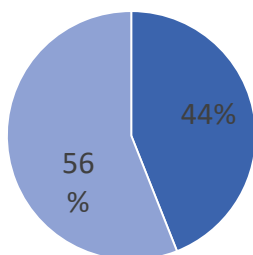
約34%の学校が、委員の任期に更新限度を設定した方がいいと回答した。
3年～5年程度の回答が多く寄せられた。

17

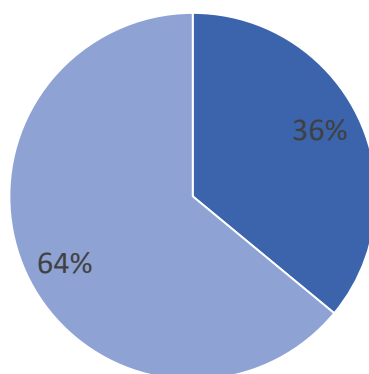
17

Q 1 4 委員長の任期についても定めた方がいいと思いますか。

令和6年度



令和7年度



■ 思う ■ 思わない

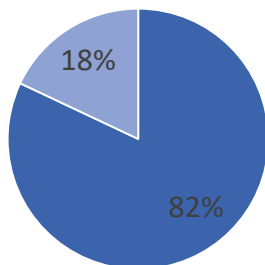
約36%の学校が、委員長の任期について定めた方がいいと回答した。
2、3年程度との回答が最も多く寄せられた。

18

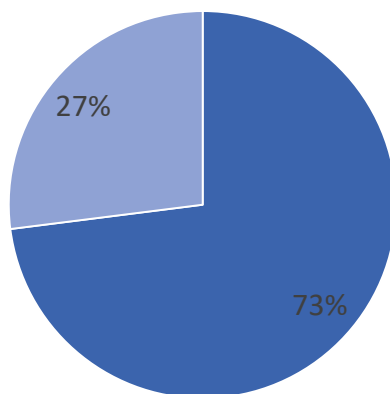
18

Q 1 5 現在委嘱されている地域コーディネーターの人数は足りていると思いますか。

令和6年度



令和7年度



地域コーディネーターの人数が足りているとする学校は約73%であった。
後継者不足等の課題を抱えている学校や、コーディネーターによって仕事量の差があるとする学校も多い。

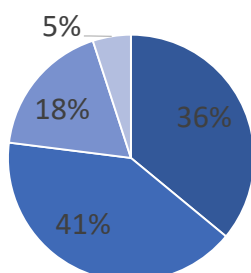
■ 思う ■ 思わない

19

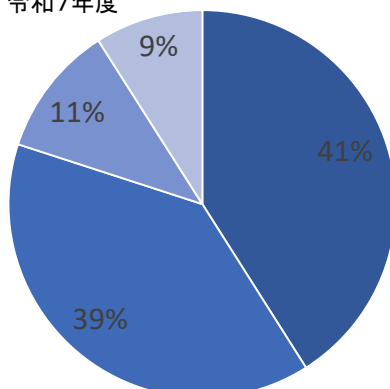
19

Q 1 6 貴校の学校支援地域本部の活動は活発だと思いますか。

令和6年度



令和7年度



「とても活発」、「どちらかといえば活発」と回答した学校は、約80%であり、昨年度よりも約3%増加した。

地域コーディネーターの活動時間も年々増加傾向にある。

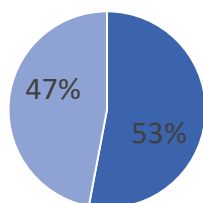
■ とても活発 ■ どちらかといえば活発
■ どちらかといえば活発ではない ■ 活発ではない

20

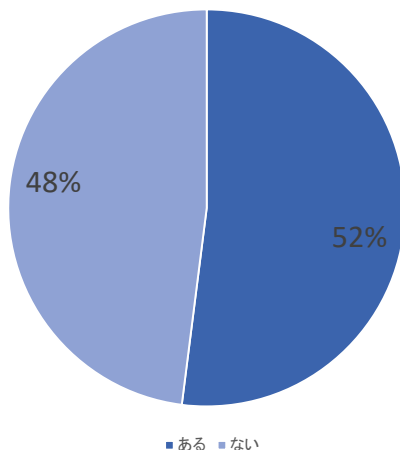
20

Q 1 7 学校支援地域本部事業について、課題と感じていることはありますか。

令和6年度



令和7年度



学校支援地域本部事業について、課題があるとする学校は約52%であった。

【主な意見】

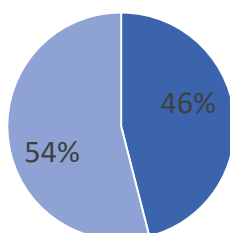
- 受け身であり、主体的ではない印象を受ける
- コーディネーターの後継者問題
- 引率ボランティアに交通費を支給してほしい
- 活動のための予算が少ないなど

21

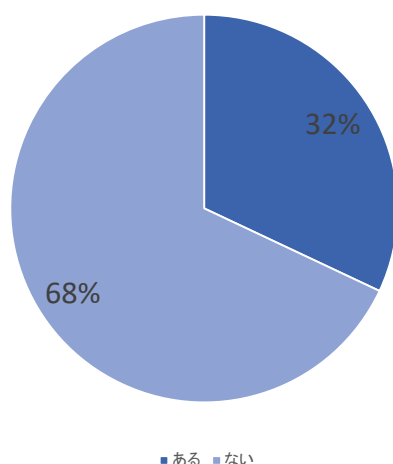
21

Q 1 8 学校支援地域本部を通さず、直接ボランティアとつながって支援活動を行っている例はありますか。

令和6年度



令和7年度



直接ボランティアとつながっている学校は、約32%であった。昨年度から約14%減少した。地域コーディネーターの調整により活動を行う学校が増えたと推測される。

【主な取組】

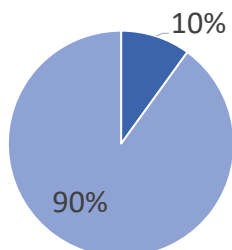
- 学習支援ボランティア
- 放課後学習教室ボランティア
- 校外学習引率ボランティア
- 別室見守りボランティア など

22

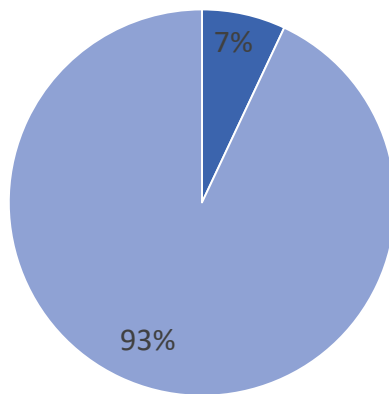
22

Q19 統括コーディネーターに相談したいことはありますか。

令和6年度



令和7年度



■ ある ■ ない

統括コーディネーターに相談したいとする学校は約7%であった。

【主な相談内容】
 ■ i C Sの在り方について
 ■ 地域人材の発掘について
 ■ C S委員会の効果的な運営方法について
 など

23

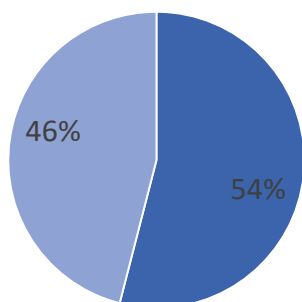
23

Q20 地域の力を活用することで、校長・副校長の業務量・負担は減ったと感じていますか。

令和6年度 設問なし

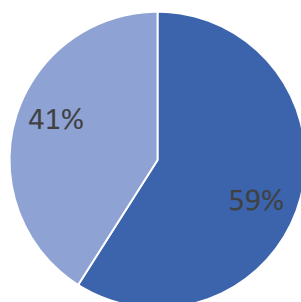
令和7年度

【校長】



■ 減ったと感じている ■ 減ったと感じていない

【副校長】



■ 減ったと感じている ■ 減ったと感じていない

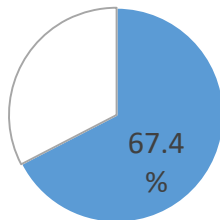
地域の力を活用することで、業務量・負担が減ったと感じている校長は約54%、副校長は約59%であった。

24

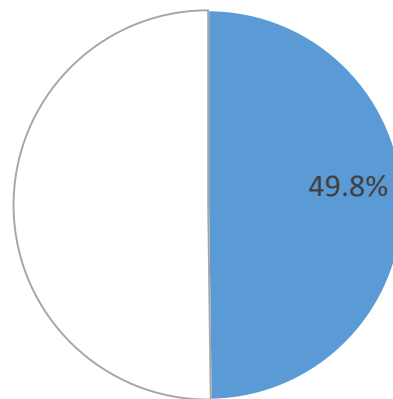
24

Q20-2 地域の力を活用することで、自身の業務量・負担が減ったと感じている教員（校長・副校長を除く）はどのくらいいますか。

令和6年度



令和7年度



地域の力を活用することで業務量等が減ったと感じている教員は約49.8%であった。昨年度から、約17.6%ほど減少した。

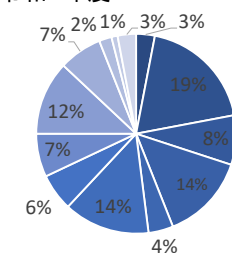
授業支援や総合的な学習の時間で負担が減ったと回答した学校が多かった一方、地域との調整に時間がかかるため、業務量・負担が減ったと感じないという意見もあった。

25

25

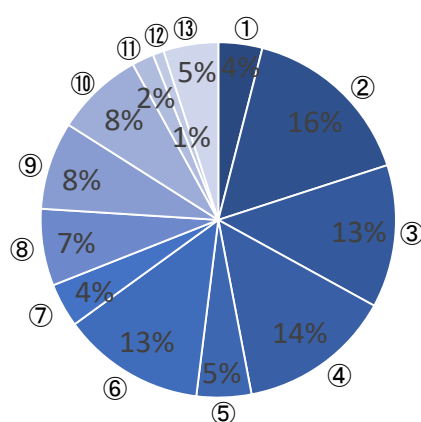
Q20-3 地域の力を活用することで、具体的にどのような点で負担が減ったと感じますか。

令和6年度



- ①授業準備
- ②授業支援
- ③キャリア教育
- ④総合的な学習の時間
- ⑤特別活動
- ⑥児童・生徒の見守り
- ⑦不登校支援
- ⑧居場所づくり
- ⑨学校行事(周年行事)
- ⑩校内整備(美化・清掃)
- ⑪部活動補助
- ⑫保護者対応
- ⑬その他

令和7年度



地域の力を活用することで負担が減ったと感じている具体的な業務について、②「授業支援」④「総合的な学習の時間」を挙げる学校が多くみられ、教員が質の高い授業づくりを考える時間の確保に貢献している。また昨年度と比較し、③キャリア教育を挙げる学校の割合が約5%増加した。

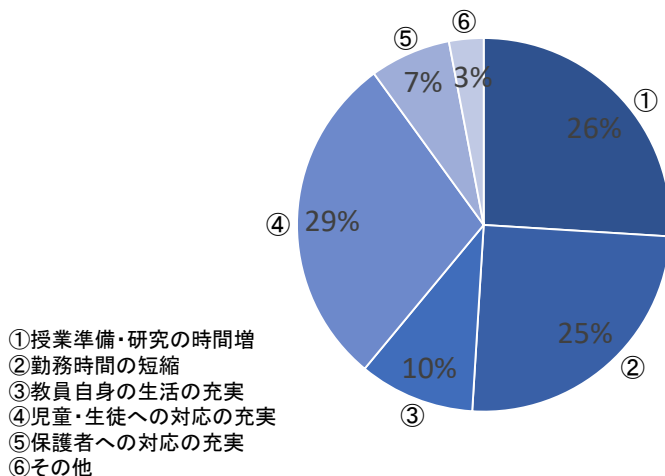
26

26

Q20-4 業務量や負担感が減ったことにより、どのような効果がありましたか。

令和6年度
設問なし

令和7年度



業務量や負担感が減ったことにより生じた効果について、①「授業準備・研究の時間増」④「児童・生徒への対応の充実」を挙げる学校が多くみられた。その他の意見としては、「教員が対応できない時間における児童・生徒の見守りが可能となった」という意見などがあつた。

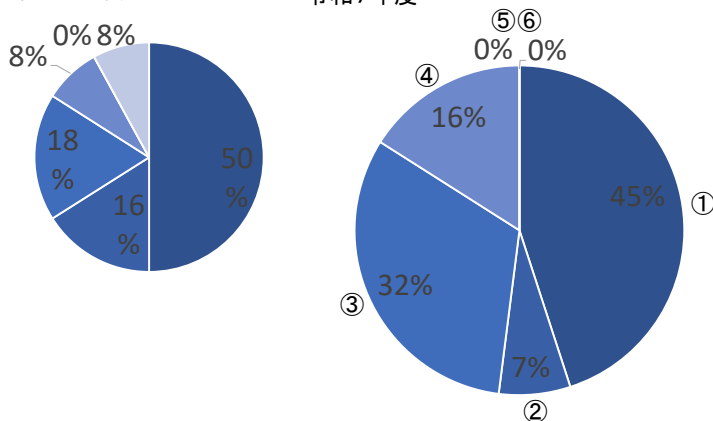
27

27

Q21 「地域とともにある学校」を実現するにあたり、最も必要だと思う要素を1つ選択してください。

令和6年度

令和7年度



①を必要とする学校が約45%、③を必要とする学校が約32%であった。
地域の特色を生かした教育活動の展開について重視する学校の割合が増えた。

- ① 地域との連携・協働が不可欠だとする学校・教職員の意識
② 学校と地域が目標・ビジョンを共有するための熟議の実施
③ 地域の特色を生かした教育活動の展開

- ④ 地域人材の学校経営への参画
⑤ 地域への学校施設の開放
⑥ その他

28

28

Q22 iCSに関して、教育委員会に対する要望、又は悩みや課題等がある場合はご記入ください。

主な意見の内容とそれに対する回答

意 見	回 答
司会・議事録の作成などを委員が行うように働きかけてほしい。	年度初めに開催予定のCS委員初任者向け研修及びCS委員研修をととして、CS委員の役割について広く周知していく。
教育委員会に各学校のCS委員会へ参加をしてもらい、他校の取組やiCSの在り方について情報共有してもらいたい。	CS委員会の視察を行い、熟議の方法や委員会の運営について好事例の収集、発信をしている。事務局だけでなく、統括コーディネーターも視察を行うことで、各校の悩みや事例の発信について柔軟に対応できるように努める。
iCSの理念の伝わり方が学校や人によって温度差がある。	教職員や保護者等地域に対するiCSの理念周知は課題の一つである。iCSレターや研修等により、iCSの理念を分かりやすく伝えるよう努める。

29

板橋区コミュニティ・スクールに係る アンケート調査《CS委員回答用》 まとめ

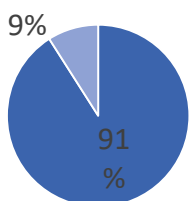
令和7年度

1

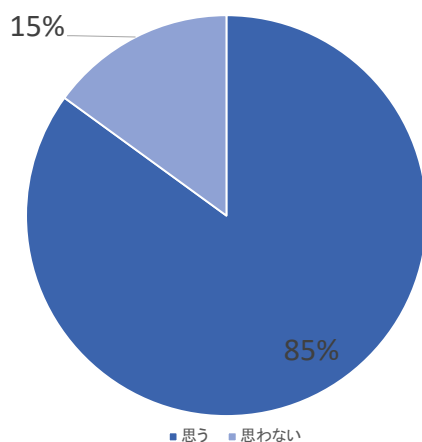
1

Q1 会議の開催時間や開催時期・開催数は適切であったと思いますか。

令和6年度



令和7年度



■ 思う ■ 思わない

約85%の委員が会議の開催時期・開催数は適切であったと回答した。

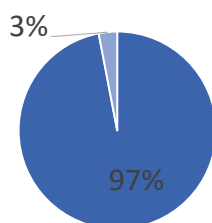
思わないとする回答の中には、「平日の参加は仕事の関係上難しい。」「時間が限られる中で全員の意見を聞けないこともあった。」などの意見があった。

2

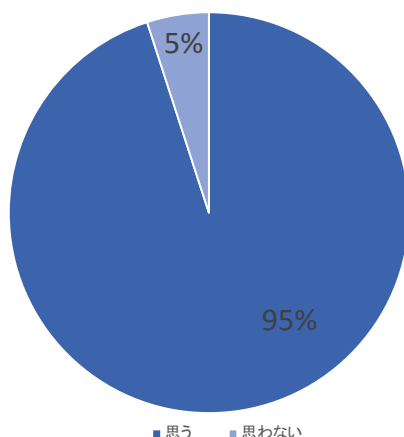
2

Q2 熟議のテーマ設定は適切であったと思いますか。

令和6年度



令和7年度



■ 思う ■ 思わない

熟議のテーマが適切であったと思う委員は、約95%であった。

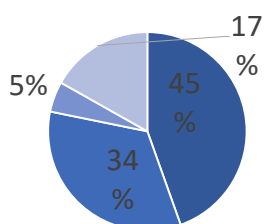
思わないとする回答の理由として、「テーマが大きく、抽象的なため、熟議にならないことがあった。」
「年間通して議論するテーマを設け、毎回継続的に議論する時間を作る方が良いのではないかと思う。」との意見がみられた。

3

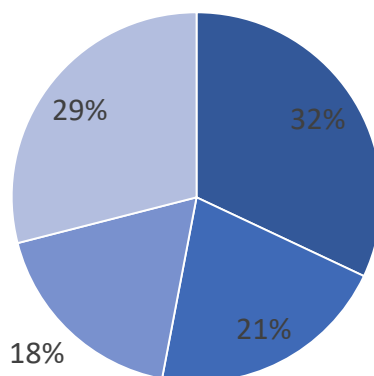
3

Q3 CS委員会の開催方法として、書面開催及びWEB開催は必要だと思いますか。

令和6年度



令和7年度



■ 両方必要 ■ 書面開催は必要 ■ WEB開催は必要 ■ どちらも必要ではない

書面開催及びWEB開催が必要だと思う委員は、約71%であり、昨年度より約12%減少した。

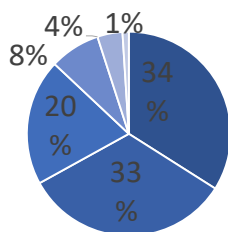
書面開催やWEB会議を取り入れた方が出席率が上がるのではないかとの意見がみられた一方で、学校に赴き学校の様子を肌で感じる必要があると考える委員も多い。

4

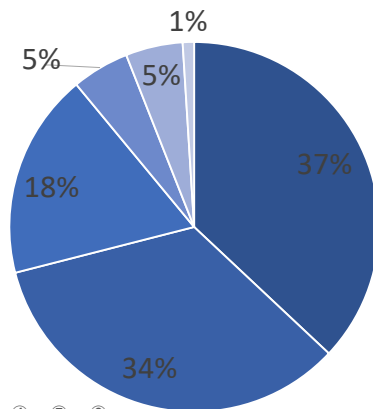
4

Q4 地域とともにある学校を実現するにあたり、最も必要だと思う要素を1つ選択してください。

令和6年度



令和7年度



①及び②について、最も必要だとする回答が多かった。

学校の様子や課題を把握するうえで、教員を交えた熟議の実践を重視する委員が多い。

■① ■② ■③ ■④ ■⑤ ■⑥

- ①地域との連携・協働が不可欠とする学校・教職員の意識
②学校と地域が目標・ビジョンを共有するための熟議の実施
③地域の特色を生かした教育活動の展開

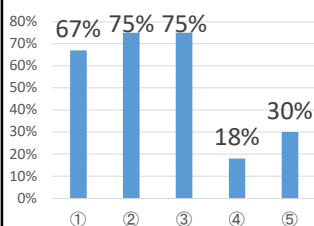
- ④地域人材の学校経営への参画
⑤地域への学校施設の開放
⑥その他

5

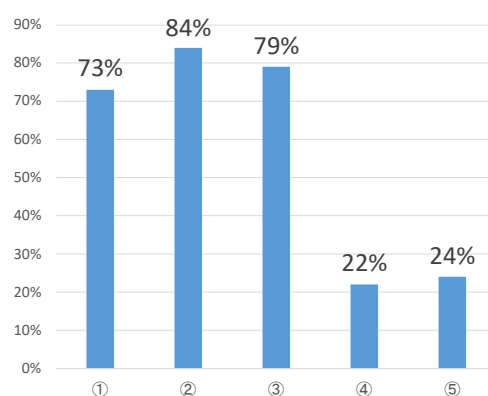
5

Q5 学校の仕組みのうち、理解しているものを全て選択してください。

令和6年度



令和7年度



昨年度と比較し、ほとんどの項目で理解している委員の割合が増加している。④の教育課程の編成の仕組みについての委員の理解度の低さは今後の課題となる。

- ①教職員の勤務時間
②教職員の職層の仕組み(校長・副校長・主幹教諭など)
③学校で働いている教職員の種別(教員、事務職員など)

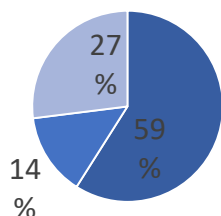
- ④教育課程の編成の仕組み
⑤教職員の異動の仕組み(異動対象者、任命権者など)

6

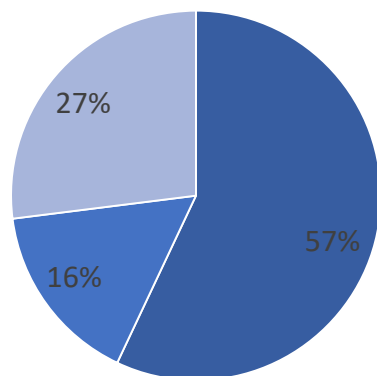
6

Q6 学校支援地域本部がどのような活動を行っているのか分かりますか。

令和6年度



令和7年度



■ 分かる ■ 分からない ■ どの活動が該当するのか分からない

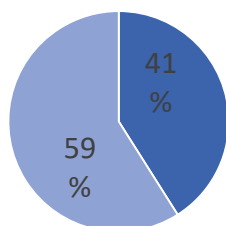
i CSの両輪である学校支援地域本部について、約57%の委員が分かれると回答している。CS委員会の中で地域コーディネーターからの活動報告を必須とするなどし、CS委員への認知度を上げていく必要がある。

7

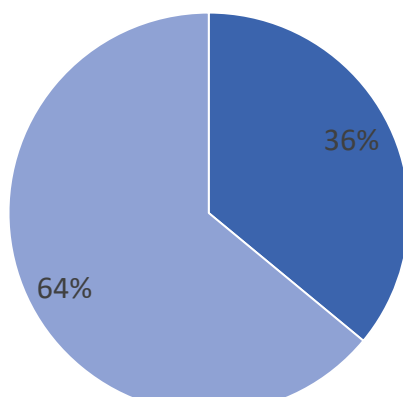
7

Q7 1年間CS委員として活動してみて、CS委員会について課題と感じていることはありますか。

令和6年度



令和7年度



■ ある ■ ない

約36%の委員がCS委員会に課題があると回答した。

【主な意見】

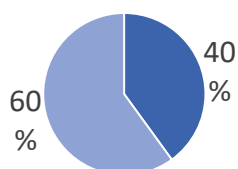
- 熟議の時間が短い、開催回数が少ないと感じる。
 - 熟議をしたことが具体的に形になっていない。
 - 学びのエリア内での情報共有と熟議が必要だと思う。
- など

8

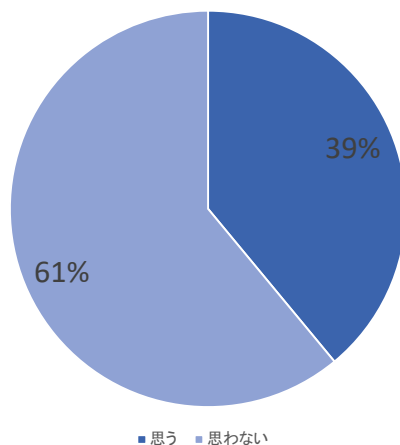
8

Q 8 委員の任期に更新限度を設定した方がいいと思いますか。

令和6年度



令和7年度



約39%の委員が、任期に更新限度を設定した方がいいと回答した。

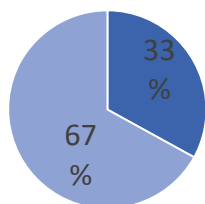
2年～5年程度の回答が多く寄せられた。

9

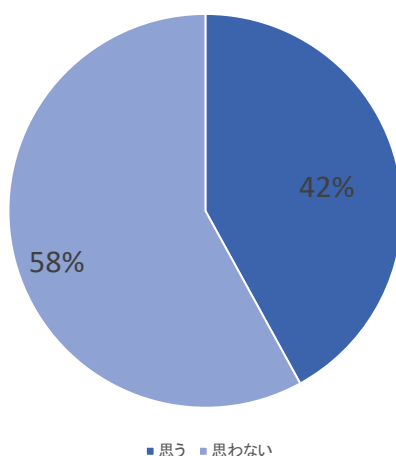
9

Q 9 委員長任期についても定めた方がいいと思いますか。

令和6年度



令和7年度



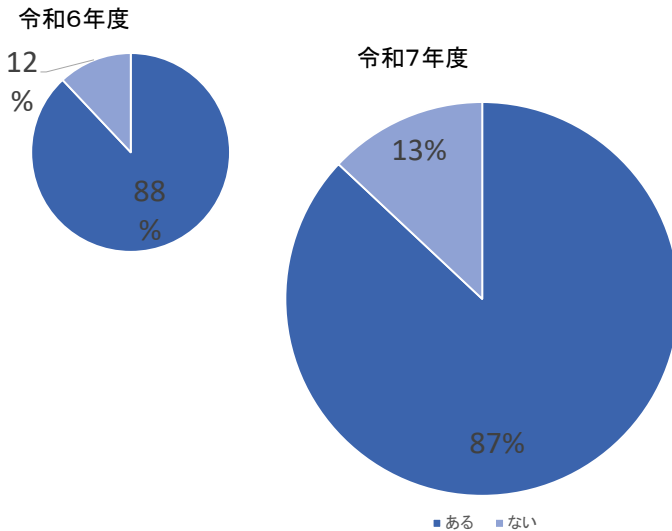
約42%の委員が、委員長の任期について定めた方が良く回答した。

委員の任期と同じく、2年～5年程度との回答が多く寄せられた。

10

10

Q10 iCSに関する情報発信のため、「iCSレター」を年数回発行していますが、読んだことはありますか。



約87%の委員が、読んだことがあると回答した。

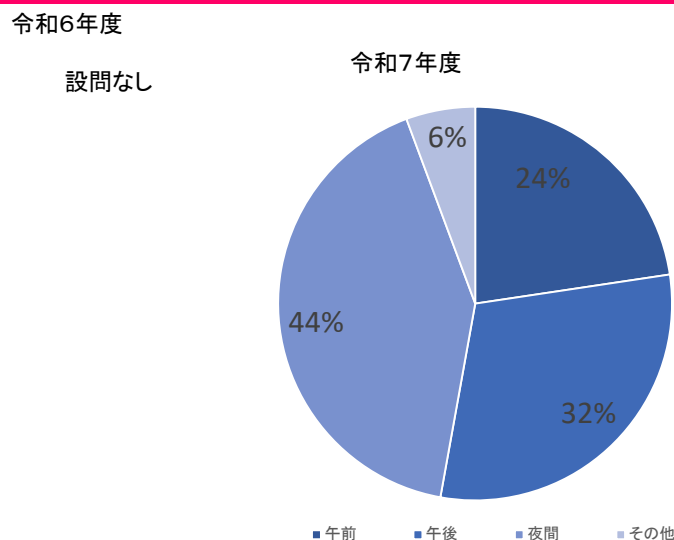
すぐーるでの配信やCS委員会での机上配付で読んでいる委員が多数だった。

内容については、各CS委員会の好事例、iCSの仕組み・取組についてについて参考になったという意見が多く寄せられた。

11

11

Q11 教育委員会が主催する研修等について、参加しやすい時間帯はいつですか。



約44%の委員が、夜間と回答し、最も割合が高かった。

研修だけでなく、CS委員会も夜間の方が参加しやすいという意見も見られた。

12

12

Q12 CS委員会や学校支援地域本部に関して、学校や教育委員会に対する要望・意見等がある場合にはご記入ください。

主な意見の内容とそれに対する回答

意 見	回 答
教員の働き方改革には賛成だが、年に数回程度はCS委員会への教員参加も必要だと思う。	教員を交えた熟議を行うことで、学校の現状や課題、悩みが見えてくる。教員を交えた熟議を行っている学校の中には、授業を終えた教員から随時参加する形式をとる学校や、夏休み中に開催されるCS委員会で教員が全員参加する学校もある。
小中合同のCS委員会を開催した方が良い。	令和7年度、学びのエリアの小中合同でCS委員会を開催した学校は約18%だった。合同のCS委員会を開催することで、中1ギャップの解消や、小中連携で取組むべき課題などについて熟議することができる。今後、CS委員会の小中合同での開催が増えていくことが期待される。
CS委員以外の地域、保護者に対するアピールがもっと必要だと思う。	地域・保護者への周知として、SNS等の活用 に力を入れていく。 オブザーバーとして委員以外の保護者がCS委員会に参加している学校もある。

13

板橋区コミュニティ・スクールに係る アンケート調査《地域コーディネーター回答用》 まとめ

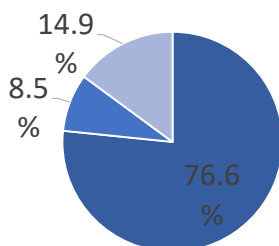
令和7年度

1

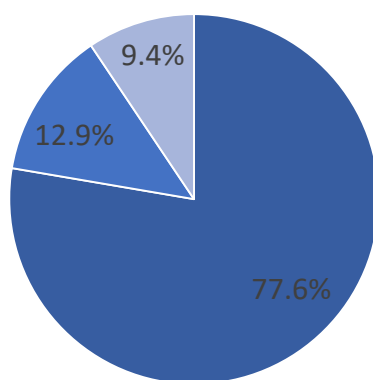
1

Q1 地域コーディネーターとしての活動の時間数は、総合的に見て適切だと思いますか。

令和6年度



令和7年度



■ 適切 ■ 多い ■ 少ない

活動時間数が「適切である」とする地域コーディネーターは約77.6%であった。

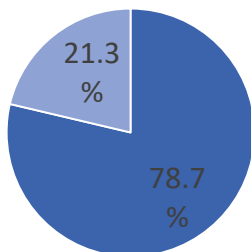
地域コーディネーターの活動時間は毎年増加傾向にある。

2

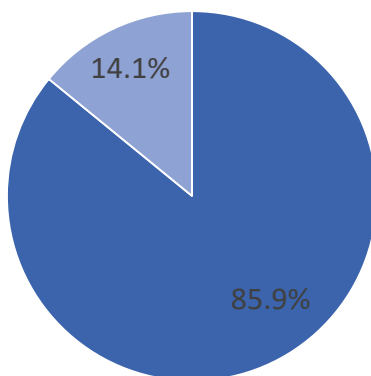
2

Q2 支援活動実施前に学校との打合せは十分に行えていると思いますか。

令和6年度



令和7年度



■ 思う ■ 思わない

学校との打合せが十分であると思うと答えた地域コーディネーターは、約85.9%と昨年度より約7%増加した。

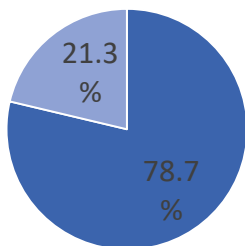
年度初めや夏休みに学校とコーディネーターとで支援活動について打合せをしている学校が多い。

3

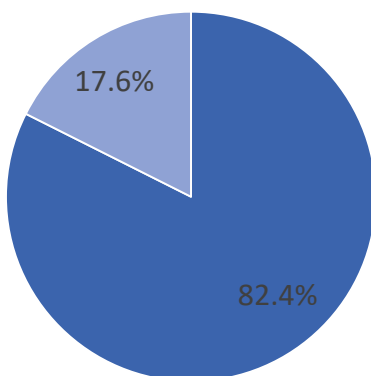
3

Q3 支援活動実施前にボランティアとの打合せは十分に行えていると思いますか。

令和6年度



令和7年度



■ 思う ■ 思わない

ボランティアとの打合せが十分であるとする地域コーディネーターは、約82.4%と昨年度より約4%増加した。

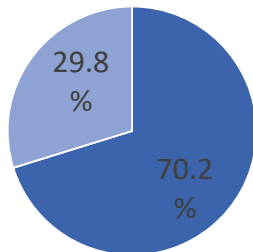
ボランティアの募集、連携について各校工夫をしながら活動している。

4

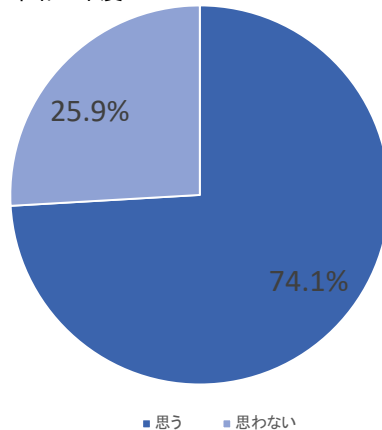
4

Q4 他の団体（おやじの会、PTA、寺子屋、町会、企業等）と連携ができていると思いますか。

令和6年度



令和7年度



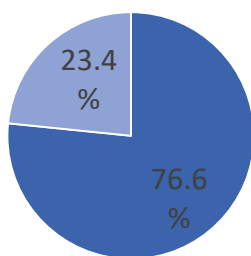
他の団体と連携ができているとする地域コーディネーターは約74.1%であった。CS委員会にて、様々な属性の委員と情報交換することができるという回答があった。コーディネーター自身がPTAやおやじの会と兼任しているケースもある。

5

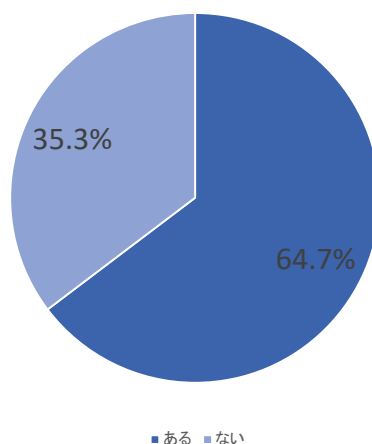
5

Q5 活動をするにあたって、課題と感じていることはありますか。

令和6年度



令和7年度



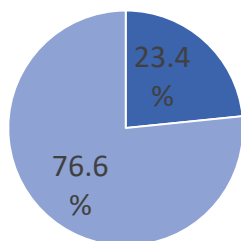
約64.7%の地域コーディネーターが課題を感じていると回答し、昨年度から約12%減少している。後継者の育成、学校とのコミュニケーションについて課題を抱えている地域コーディネーターが多くみられた。

6

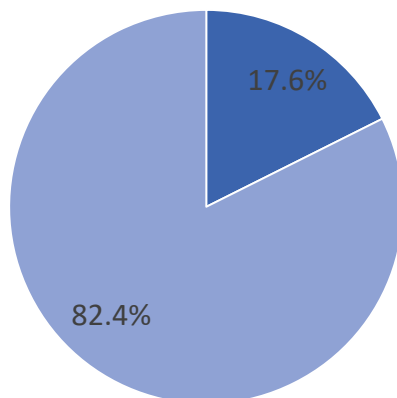
6

Q 6 統括コーディネーターに個別に相談したいことはありますか。

令和6年度



令和7年度



■ある ■ない

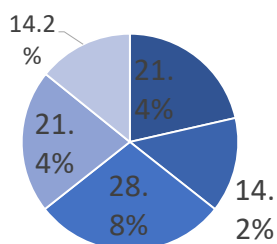
統括コーディネーターに相談したい地域コーディネーターは、約17.6%であった。ボランティアの募集方法やビオトープについてなどの相談がある。

7

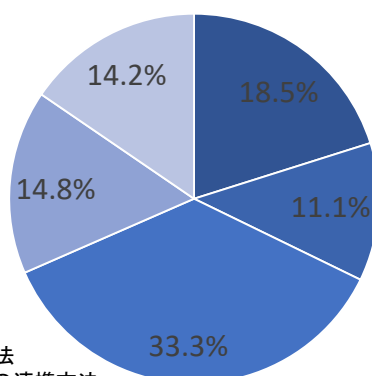
7

Q 6 - 2 統括コーディネーターにどのような内容を相談したいですか。

令和6年度



令和7年度



■① ■② ■③ ■④ ■⑤

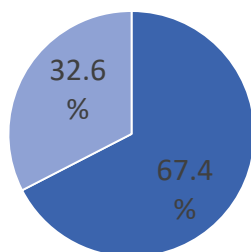
①「新たな学校支援活動の開始方法」③「学校との連携方法」について相談したいとする回答が多くみられた。研修後やCS委員会の視察後などに直接統括コーディネーターに相談することもできる。

8

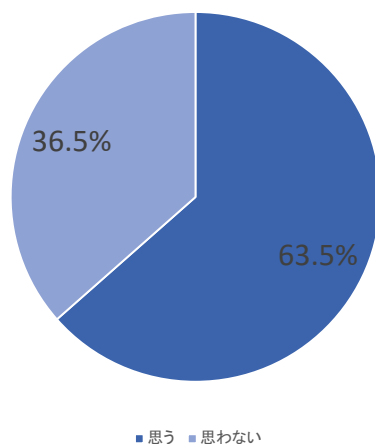
8

Q 7 CS 委員会は学校支援地域本部の活動に効果的な影響を与えていると思いますか。

令和6年度



令和7年度



■ 思う ■ 思わない

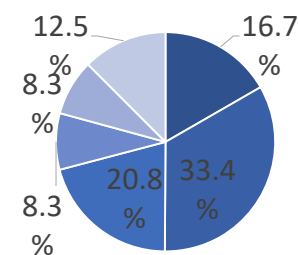
約63.5%の地域コーディネーターが、CS委員会が学校支援地域本部の活動に効果的な影響を与えていると回答した。「CS委員会に教員が参加しているため、コーディネーターへの求めが伝わりやすい」という意見があった。

9

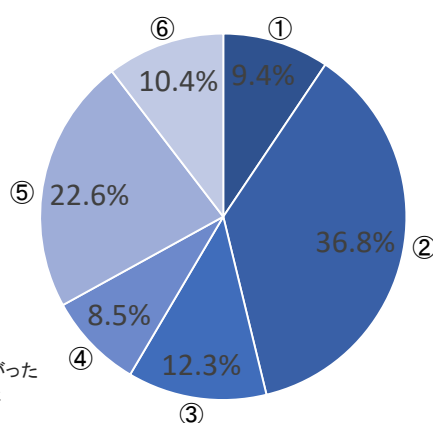
9

Q 7-2 CS 委員会は学校支援地域本部の活動に効果的な影響を与えていると思いますか。上記の回答理由を選択してください。（複数回答可）

令和6年度



令和7年度



- ① 学校支援地域本部の知名度が上がった
- ② 学校のニーズがわかりやすくなった
- ③ ボランティアが集めやすくなった
- ④ CS委員会との連携方法がわからない
- ⑤ 今までとの違いがわからない
- ⑥ その他

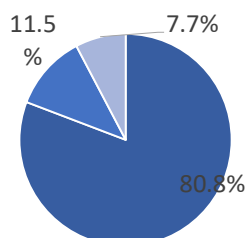
「学校のニーズがわかりやすくなった」とする回答が多く見られた。その他の意見の中には、「地域人材とのつながりにおいて視野が広がった」「CS委員会で、学校支援地域本部の活動についての問題定義をしている」などの意見があった。

10

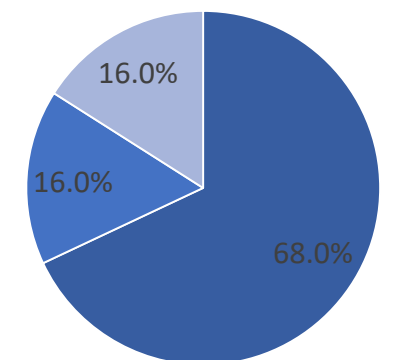
10

Q8 CS委員会で学校支援地域本部の活動について報告や相談をする機会がありますか。（CS委員に委嘱されている方のみ回答）

令和6年度



令和7年度



■ 機会があり、報告等は地域コーディネーターが行っている
■ 機会があり、報告等は学校が行っている
■ 機会がない

CS委員会において、学校支援地域本部の活動を報告している委員会は、約84%であった。

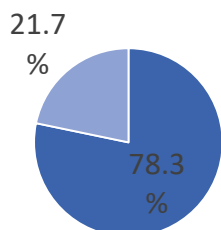
CS委員会と学校支援活動が両輪・協働の関係で機能していくために、活動報告を行うことは重要である。

11

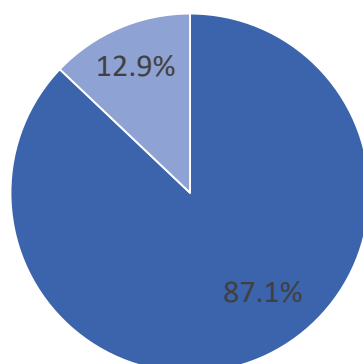
11

Q9 iCSに関する情報発信のため、「iCSレター」を年数回発行していますが、読んだことはありますか。

令和6年度



令和7年度



■ ある ■ ない

約87%のコーディネーターが、読んだことがあると回答した。すぐーるでの配信で読んでいる委員が多数だった。

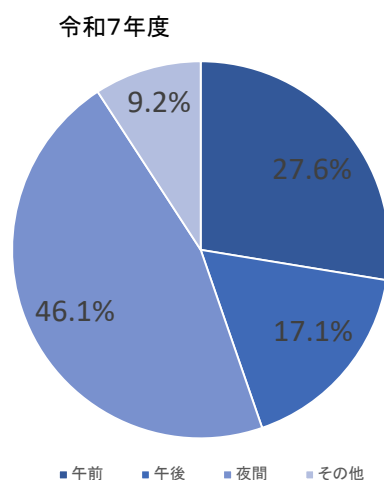
内容については、iCSの仕組み・取組について、各CS委員会の好事例について参考になったという意見が多く寄せられた。

12

12

Q10 教育委員会が主催する研修等について、参加しやすい時間帯はいつですか。

令和6年度
設問なし



夜間の時間帯が参加しやすいという回答が約46%と最も多かった。

「仕事をしている地域コーディネーターも多いため、日中の参加が難しい」とする意見が多かった。

13

13

Q11 CS委員会や学校支援地域本部に関して、学校や教育委員会に対する要望・意見等がある場合はご記入ください。

主な意見の内容とそれに対する回答

意 見	回 答
校外学習の引率ボランティアに交通費を出してほしい。	令和8年度から、校外学習引率ボランティアの交通費と入園料を支給対象としている。
学校支援地域本部の活動について知らない、良く分かっていない保護者が多い。	SNS等の活用により、保護者への活動の周知に努める。
学校からの依頼が急なことがあり、準備をする時間が足りず、サポートが中途半端になってしまうことがある。	見通しを持った活動計画ができるように、学校と地域コーディネーターの打合せの機会を多く作っていただきたい。

14

14